

# インクルーシブ教育の観点での、 小学校における国語科の授業づくり

—読解を目的とした、視覚教材の活用—

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 特別支援教育実践系

花井 聡一郎

現在、インクルーシブ教育システムの構築が進められている。しかし、特別な配慮を必要とする子どもの増加に伴い、特別な配慮を必要とする子どもとそうでない子どもたちの分離が進んでいないだろうか。本来のインクルーシブ教育の意義とは何かを改めて確認し、実践に取り組んだ。

実践は名古屋市内の小学校で行い、研究対象学級は通常の学級とした。研究対象学級の児童の実態を分析した結果、文章の読解力を課題とする児童が多く存在することが分かった。今後の学習の基礎として必要となる読解力と研究対象学級の児童の実態を踏まえて、文章の読解を目的として視覚教材を活用した国語科の授業の実践を行うこととした。

実践の結果、視覚教材を活用していない授業と比べ、多くの児童が教材テストの点数が高くなり、点数の散らばりも少なくなった。これにより、視覚教材を活用することの有効性を示すことができた。